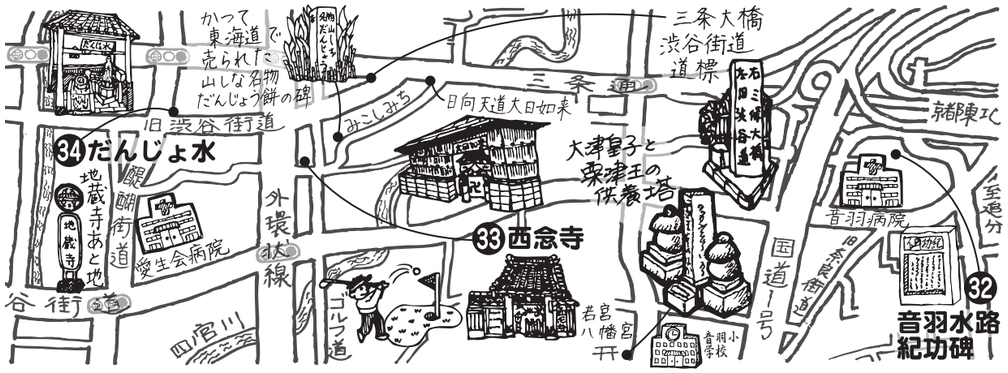
（三）渋谷街道（現・旧）

しぶたにかいどう

通称渋谷街道と呼ばれている道は、音羽から山科を横断して渋谷峠を越える道です。旧渋谷街道は、旧三条通から竹鼻・厨子奥を経て旧安祥寺川東の三叉路で現渋谷街道と合流します。古来より苦集滅道、大津道、鎌倉街道などとも呼ばれ、中世のかなり早い段階にはすでに存在していたと考えられます。



32 音羽水路紀功碑

疏水の完成と共に、疏水から水をひいて山科の田畑を潤そうと、用水路がつくられました。その一つが音羽病院の横を流れる「音羽分水路」（洛東用水）です。疏水の取水所（四ノ宮）から、四ノ宮・音羽・大塚・大宅・小野地域を流れており、これによって山科の人たちは、長年苦しんできた水不足からやっと救われることになりました。この音羽用水路の完成（一八九二年）を記念して、後に「音羽水路紀功碑」が建立されました。現在その記念碑は音羽病院敷地内の北側にあります。

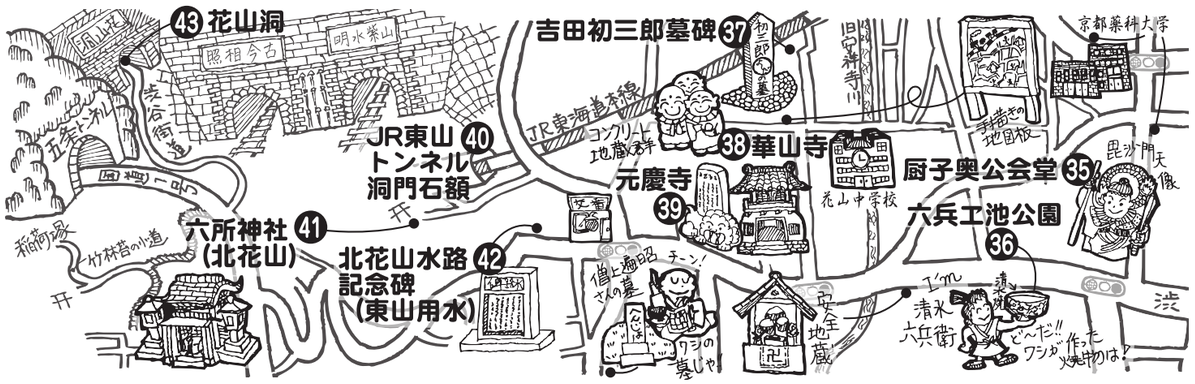
33 西念寺（さいねんじ）

竹鼻地域には昔から「竹鼻三ノ堂」と呼ばれる三つのお堂がありました。その中でただ一つ現存するお寺です。正式には「浄土宗知恩院派紫雲山西念寺」といい、竹鼻地域の多くの住民を檀家としています。本尊の阿弥陀仏について『雍州府志』（一六八四年）では聖徳太子作と言い伝えられてきたことが記されています。

幼児教育に深い関わりをもっているお寺でもあり、昭和初期からの日曜学校を基に一九四二（昭和一七）年から西念寺保育園が開園され、現在、西念寺の住職は山科幼稚園（竹鼻四丁野町）の園長も兼務されています。

34 だんじょ水

竹鼻の商店街の中に「だんじょ水」という湧き水が湧いています。もともと「だんじょ」とはこの地域にある護国寺のことです。江戸時代に水不足に苦しんだ竹鼻西部村民たちにより、護国寺の余水を地下埋設水路によって現在地まで導水する工事が行われました。そしてこの水は昭和初期まで地域の人々の生活を支えてきました。戦後になって宅地開発が進んだためか、一時期水が出なくなったこともありましたが、保存を願う人々の努力によって復活し今日に至っています。地元ではこの用水のこ



とを、単に「ダンジョ」と呼んできたそうです。

35 厨子奥公会堂

厨子奥公会堂の中には毘沙門天立像が安置されています。この厨子奥の毘沙門天立像は、もともと厨子奥の総鎮守としてこの地にあった永正寺（えいしょうじ）に安置されていたもので、十四世紀前半（鎌倉時代末期）の制作と推定されています。もとは西方にあった毘沙門堂の本尊でしたが、堂焼失後、永正寺に移されました。この永正寺の跡に公会堂ができました。また厨子奥公会堂で行われる地蔵盆では「数珠回し」の伝統行事も続いています。

36 六兵工池公園

もともとこの地には、西野村の人たちが共有で使う「総池（そうけ）」と言われる池があったのですが、この池の北側に清水焼陶工で有名な五代目清水六兵衛（べえ）が別荘を構えたために、「六兵衛池」と呼ばれるようになって、地域の人たちから愛されていました。その後、池が埋め立てられて公園になったため、「六兵工池公園」と呼ばれています。今も公園の北側に水の湧き出るところが残されています。

37 吉田初三郎墓碑

吉田初三郎は、大正時代から昭和時代前期にかけて活躍した人で、観光絵図作家あるいは優れた鳥瞰（ちょうかん）図作家として全国的にも有名で、「大正広重」などとも呼ばれていました。

當麻寺岡之芝墓地南側にある墳墓は東面に「初三郎（よしだ）家墳墓」と書かれており、西面には「昭和十四年六月十四日建之」と書かれています。

38 華山寺（かざんじ）

中世に衰退した慈徳寺の旧跡をしのび、妙心寺の愚堂（ぐどう）国師が江戸時代の一六五八年に創建しました。「愚堂国師入定之地」としても知られ、区民誇りの木（ケヤキ）もあり、境内周辺には地元の方が作られたお地蔵さんも多数並んでいます。